

## 第2章 大学4年間を見通した教員採用選考試験対策

### 第1節 国士館大学の「教職の国士館」

#### 1 「活学」 — 「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す—

国士館大学は、「国士館は、1917（大正6）年、『活学』を講ずる教育道場として、吉田松陰の精神を範とした私塾『國士館』が創立されました。 國士館の設立趣旨は、日々の『実践』のなかから心身の鍛錬と人格の陶冶をはかり、国家社会に貢献する智力と胆力を備えた人材を養成することにあります。（[教育の特色／国士館大学について／大学案内 | 国士館大学 \(kokushikan.ac.jp\)](#)）」と述べています。

さらに、国士館大学 ([6.pdf \(kokushikan.ac.jp\)](#)) は、「建学の由来と理念」の中で、以下のとおり、述べています。

創立者たちのねらいは、吉田松陰の精神を範とし、教学の適地として世田谷の松陰神社隣接地に学舎を建設し、「国士館設立趣旨」でうたわれているように、日々の「実践」のなかから心身の鍛錬と人格の陶冶をはかり、国家社会に貢献する智力と胆力を備えた人材「国士」を養成することにあります。以来、「国士」養成を理念として、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」の三綱領を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の四徳目を涵養することを教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を世に輩出してきました。今日、国士館は、このような建学の志を大切に継承しながら、新たに発展を遂げた研究教育の諸領域でも、知識と実践の水準を高めつつ、世界の平和と進運を目指し、現代社会に積極的に貢献する真摯な努力を続けています。

#### 2 四徳目（誠意・勤労・見識・気魄）

国士館大学 ([6.pdf \(kokushikan.ac.jp\)](#)) は、建学の精神、教育理念、教育指針について、以下のとおり、述べています。

##### （1）建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精進向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成」を目指す。

##### （2）教育理念

「国士」養成のため、四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を兼ね備える教育を行う。「誠意」とは、真心と慈悲の心で、世のため、人のために尽くすこと。「勤労」とは、向上心を持って、誠実に仕事をする事。「見識」とは、道理のもと、物事を見抜く力をもつこと。「気魄」とは、信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと。

##### （3）教育指針

四徳目を備えるには、不断の「読書・体験・反省」を実践し「思索」すること。「読書」とは、善き書物に学び、世の中や自然界の真を理解すること。「体験」とは、智恵を持って善悪を判断し、善なる判断を実行すること。「反省」とは、何事も行った後、その行為を省みること。「思索」とは、省みた内容を検討し、次なる目標を立案すること。

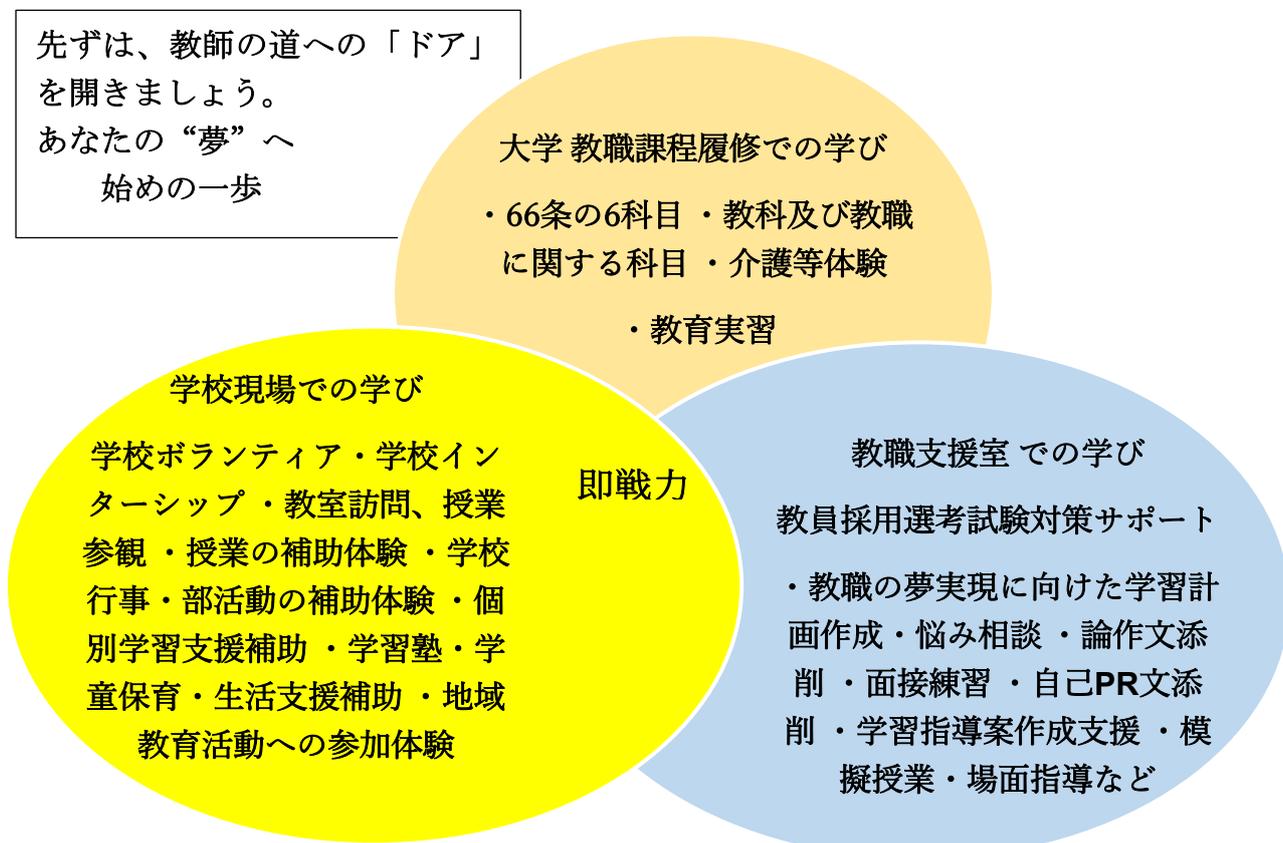
##### （4）総合大学へ発展の道

近年では、21世紀アジア学部・理工学部・経営学部などを設置、大学院に各研究科を新設、加えて梅ヶ丘校舎やメイプルセンチュリーホール建設などの創立100周年記念事業も展開しています。国士館は現在、世田谷・町田・多摩の3キャンパスに、大学7学部、大学院10研究科、高等学校、中学校を擁し、新たな時代を担う真の人材育成を行っています。

国士館大学ホームページ [6.pdf \(kokushikan.ac.jp\)](#) より、引用（令和4年4月11日現在）

### 3 三位一体の教員採用選考試験対策

国士館大学の教員養成プログラムの中核にある大学4年間の「教職課程履修での学び」、「学校ボランティア体験など学校現場での学び」、「教職支援アドバイザーが配置された教職支援室での学び」の三本の弓矢によって、教師としての資質・能力の向上（即戦力）が育成され、合格しています。「教職の国士館」と呼ばれるほど多くの卒業生が全国の学校現場で活躍しています。



国士館大学ホームページ「教職課程 教職支援室」一部引用 令和4年1月25日現在

幼稚園教諭から高校教諭まで、国士館大学では、すべての学部学科で、さまざまな分野の教員免許取得が目指せます。

教員免許状を取得するには、教職課程を履修し、教育職員免許法に基づいた単位数を修めなければなりません。自身が入学した学部卒業に必要な単位以外に、教員免許取得に必要な科目の単位履修が必要です。そのため、1年次からのガイダンスに参加し、3年次や4年次には介護等体験、教育実習、養護実習、特別支援教育実習を行います。また、実際に教員に採用されるためには、教員採用試験に合格しなくてはなりません。

この合格者を数多く輩出するため、3つのキャンパスそれぞれに、校長経験者などの経歴をもつ教職支援アドバイザーを配置して、学生の利用を促しています。また、国士館大学は、東京教師養成塾（東京都教職員研修センター）、埼玉教員養成セミナー（埼玉県教育委員会）、横浜市教育委員会ならびに世田谷区教育委員会との連携大学です。

（国士館大学教職課程運営公開サイト一部引用、令和4年1月25日）

国士館大学教職課程運営公開サイトを活用してください。

[教職課程情報公開サイトはこちら](#)

[教職支援室についてはこちら](#)

#### 4 教員採用選考試験「4ヶ年学習計画」立案の必要性

平成 28 年 12 月 21 日の中央教育審議会答申を踏まえた新学習指導要領は、小学校は全面で令和 2 年 4 月から、中学校は全面で令和 3 年 4 月から、高校は年次で令和 4 年 4 月から、実施されています。さらに、令和 3 年 1 月 26 日の中央教育審議会答申では、すべての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体とした令和の日本型学校教育が提起されました。これらを背景として、これまでの教員採用選考試験対策は、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すという視点から、急速に見直され新たな「即戦力」が求められてきました。学生の皆さん、合格を決める重要ポイントとして、新たな「即戦力」育成を目標とした「4ヶ年学習計画」を具体的に取り組みしましょう。

##### 教員採用選考試験対策事業概略

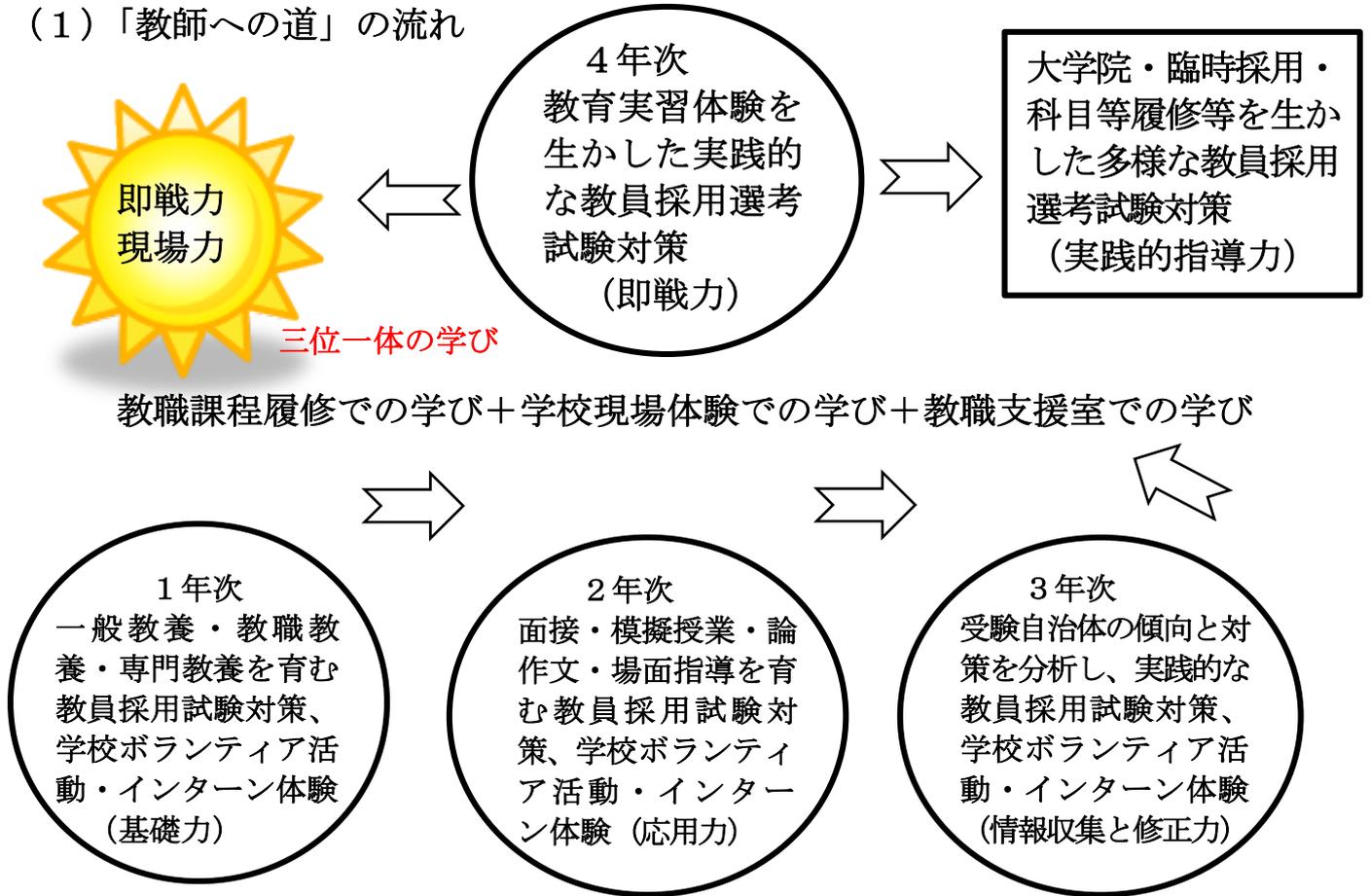
学年 学び	1 年 基礎力	2 年 応用力	3 年 自己啓発力	4 年 即戦力	大学院・卒業生 突 破 力
教職課程履修	I 教職課程履修 66条の6科目 教科及び教職に関する科目 介護等体験 教育実習			教員採用選考試験 (二次・二次) 教育実習	卒業生への支援 臨時任用・講師・非常勤講師 大学院進学専修取得 複数免許取得 ・通信教育 ・科目等履修制度 ・聴講生制度
学校体験	II 学校体験を通じた教育像・教師像・授業像・学級像・学校像などの形成 学校ボランティア体験・インターンシップ制度の活用 授業支援、学級担任補助、学習面や生活面への支援、学校行事や部活動補助 学習塾講師、学童保育など				
教職支援室での学び	III 教職支援室のよさを生かした即戦力育成 (1) 受験自治体教員採用選考試験の分析と対策（過去5年間分）相談支援 一次教授対策：主に筆記試験（一般教養、教職教養、専門教養など） 二次教授対策：主に人物評価（論作文、個人面接・集団討論、実技テストなど） (2) 教員採用試験一次・二次対策直前指導（個別に対策します）相談支援 ・面接（個人面接・集団面接・集団討論、模擬授業、場面指導など） ・論作文（400字、600字、800字、1000字など自治体による） ・模擬授業（各教科・道徳科、模擬授業についての討論） ・場面指導（生徒指導提要进行を参照） ・模擬授業（単元計画・指導案・本時の展開・発問・板書など） ・実技テスト（各教科別・養護など自治体による） ・適性検査 (3) 教師塾・セミナー志願者などへの相談支援 ・教師塾・セミナー志願者への面接・論作文指導対策 (4) 私立学校の相談支援 (5) その他相談支援 ・大学院進学・通信教育活用による専修取得、複数免許取得 ・科目等履修制度の活用 ・聴講生制度の活用 (6) 春期・秋期特別講座の活用				

課題：教職の夢を実現するため、何から始めたらよいか。大学4年間どのように取り組んだらよいか考える時期です。それでは「4ヶ年教員採用選考試験対策計画書」を作成してみましょう。

## 5 教員採用選考試験対策「4ヶ年学習計画」作成上の留意点

まず、三位一体の学びを中核とした教員採用選考試験対策の流れ「教師への道」を具体的に作成し、実践段階に進みましょう。挑戦してみると具体的な課題が見えてきます。

### (1) 「教師への道」の流れ



### (2) 1年間の学習計画（筆記試験、論作文・面接・実技）を具体的に立案しよう。

	春 期			夏季休業				秋 期						
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
主な取り組み例	学校ボランティア体験	教員採用出願手続き 教育実習	第二回面接練習・研修会	模擬試験	第三回面接練習・研修会	一次教員採用選考試験	二次教員採用選考試験 第四回面接練習・研修会	試験内容復元報告	一次教採対策プラン講座開始	教育実習 学校ボランティア体験	私立学協会講師等採用登録申請	臨時任用採用等登録申請 赴任前実践力養成講座	模擬試験 学校ボランティア体験	第一回面接練習・研修会 在校生ガイダンス

## 第2節 1, 2次教員採用選考試験対策「ロードマップ」

### 1 筆記試験・論作文・面接などの学習計画の立て方ー

学生の皆さん、「何を」やるべきか。「いつ」やるべきか。「どのように」やるべきか。学生や卒業生の皆さんの不安、悩み、学習方法などの相談にのります。是非、世田谷・多摩・町田各3キャンパスの教職支援室のドアを開けてください。教職支援室の先生方がお待ちしております。

計画立案		教職・一般・専門教養	面接・論作文
9月	基礎力養成期	過去問の分析	受験する自治体の過去問題を解き、その「分析」を行う。分からないところは、参考書などで確認しながら、全領域をくまなく学ぼう。
10月			
11月			
12月	応用力伸長期	演習問題・復習の繰り返し	受験する自治体の出題傾向に合わせて、演習問題に合わせて、演習問題と復習を重ねる。問題集は1回やって終わりではなく、完璧に解けるまで何回も繰り返しましょう。
1月			
2月			
3月	直前完成期	模擬試験・最終仕上げ	何度も間違える問題を重点的に学習し直すなどして弱点を消しましょう。また、模擬試験等を受けて自分の実力を把握し、本番に向けて最終の仕上げを行いましょう。
4月			
5月			
6月			
7月			
8月	第1次教員採用選考試験	第2次教員採用選考試験	個人面接・集団面接・場面指導・集団討論・模擬授業・実技
9月			

『月刊教員養成セミナー』より一部抜粋 2019年10月号 P21「学習計画」より、引用

## 2 攻略の鍵—セルフマネジメント力—

本テキストでは、教員採用選考試験の学びを通してはぐくむ資質・能力を「セルフマネジメント」と呼んでいます。セルフマネジメントは、目標達成や自己実現のために、自分自身を律して管理することと言われますが生徒指導では自己指導能力とも言われます。筆記試験に強くなるコツは、言われてから行うのではなく、自ら段取りや時間管理を行いながら、確実に学習を進めることができる「セルフマネジメント」能力を高められるようにしましょう。

### (1) 基礎力養成期 (9月～12月)

#### ①「教職教養・一般教養・専門教養」

“広く浅く”全体を把握し、過去問を分析し、それぞれを体系的に理解しましょう。

(ポイント1) 出題項目を知る。出題形式は、マークシートか、選択・記述式か、論述式か？

例えば、同じ「教育法規」の条文の空欄補充問題でも、各設問に選択肢がついているマークシート式と空欄部分の用語を書かせる記述式とでは、条文暗記の心構えが違ってきます。

(ポイント2) 出題量、難易度は、1題あたりにかけられる時間は？ 難易度は？

制限時間÷出題数で、1題あたりにかけられる時間を割り出してみよう。一般教養の理科や数学、専門教養の論述式問題など、時間配分を意識した対策が必要です。一般教養であれば、高校入試レベル、専門教養であれば大学入試センター試験レベルなど、あなたの課題に合った準備・演習を行いましょう。

(ポイント3) 間違った問題はそのまま放置しない。出題分野・領域、出題パターンは？

3～5年分の過去問を分類分析すれば、効率的な学習対策ができます。但し、併願自治体を選択する場合、共通点も考慮してトータルで学習対策を進めましょう。

#### ②「論作文・面接・実技」

基礎力養成期は、直前期に慌てないためにも、筆記試験対策のみにせず、同時並行で進めることが重要ポイントです。まずは、3～5年分の過去問を分類し分析しましょう。

(論作文) どんなテーマが出題されているのか。制限時間・文字数は？

(面接) どんな形式(個人・集団面接、集団討論、模擬授業、場面指導など)？

(実技) どんな内容(科目、実技内容など)？体育科や音楽科などは、基礎基本から学ぶためスポーツ教室で学び直してみることがポイントです。学習者の視点から実技を始めましょう。

### (2) 応用力伸長期 (1月～3月)

#### ①応用力伸長期の「教職教養・一般教養・専門教養」

教職教養は、教育原理分野の学習指導要領の変遷(改訂の特徴など)や前文、総則、解説など、学習指導要領関連の資料やデータは重要です。100%を目指しましょう。

一般教養は、やみくもに手を付けても終わりません。受験自治体の頻出分野・領域を集中的に学習してから、その他の領域に広げる。苦手とする人が多い自然分野(理数)、最近では英語が出題されています。受験自治体の分析に基づいた領域を徹底的に、集中的に攻略しましょう。基礎力養成期に使っていた問題集、参考書、過去問などやノートを繰り返し見直し、100%目指して挑みましょう。「学習指導要領解説 総則編」からの出題は、全面実施の時期からも貴重な得点源です。公開模試を活用すること。

合否の鍵は専門教養です。学習時間を大幅に取り、徹底的に攻略しましょう。過去問の難易度(大学入試センター試験レベル、難関私大レベル)を参考に、大学入試用の問題も活用しよう。

また、各教科の学習指導要領解説編からの出題は貴重な得点源です。小中高等学校は全面実施に入っている時期の教員採用選考試験対策として、特に重要ポイントです。

#### ②応用力伸長期(1月～3月)の「論作文・面接・実技」

論作文対策では、作を「策」と捉え直すべきであると言われます。つまり、具体的に述べるができることが重要ポイントです。志望する自治体の過去の出題テーマに基づく予想テーマで、最低でも最低でも月に3本のペースで書いていきます。最初は、よいと考える論作文を写すことから始めましょう。書いた論作文は必ず添削してもらおう。まず、パターン化して徹底して覚えることです。

面接対策では、時事問題として教育関連ニュースの切り抜き、「確かな学力」や「主体的・対話的

で深い学び」、「令和の日本型学校教育」などの課題、いじめ・虐待・不登校に対する教師としての対策などについて、自分の考え方（背景・課題・具体策）で正対し、オリジナルの面接ノートに仕上げましょう。個人面接、集団面接・討論は、論作文対策と多くのつながりがあります。

**実技対策では**、早めに実施課題の練習に入りましょう。実技は得意だからと思っていると失敗します。評価する試験官の立場、評価の観点をもとに、児童生徒に技のコツを見せるという演技者の視点での評価を忘れないようにしましょう。

### (3) 直前完成期（4月～7月）

#### ①「教職教養・一般教養・専門教養」

**教職教養・一般教養では**、総復習と過去問演習を自信を持って解答できるようにしましょう。また、公開模試も挑みましょう。現役学生の多くは、この直前完成期に教育実習が入ります。教育実習期間は、筆記試験対策は十分に取れませんので教育実習前に一区切りさせます。教育実習での経験は、論作文や面接に直結する学びに出会います。受けた指導内容や児童生徒の反応、学習指導案作成、研究授業などを面接・集団討論、模擬授業、場面指導や論作文に生かすことができるようメモをとることが重要ポイントです。一冊の内容を完璧に身に付けることが第一優先です。

**専門教養では**、教育実習期間中の「学習指導案」を事前に作成しておくことが重要ポイントです。教育実習事前打ち合わせの時に、事前指導の日程を調整し単元計画や観点別評価などについて、学びましょう。専門教養の出題傾向分析が教育実習の授業で実際に体験できるというメリットがあります。教育実習は、これまでの机上の学びを実践で学び直す期間です。

#### ②「論作文・面接・実技」

教育実習中であるからこそ可能な、論作文・面接・実技対策を進めます。1次試験を終えたら、結果を問わずに引き続き面接・論作文・実技対策を続けましょう。

**論作文では**、課題テーマを増やし執筆ペースを上げます。課題テーマごとの「引出しづくり」（論作文ノート）を仕上げていきます。論作文800字、60分の場合、最初は正対しキーワードを決め3つの柱立ての構想時間は8分（8・10・10・4行に分け① ②を書く）。執筆に47分、見直しに5分です。第2に、結論4行（チーム学校づくり）を書き終えてから、柱立て1（授業づくり）、2（学級づくり）の各柱立て1行（短文）を書き、序論8行に進む。その後、各柱立ての論2行・例2行・策5行という手順で書き始めることを提案します。慣れたら、自由に展開していきましょう。まずは、完成された論作文を写すことで学ぼう。次に、時間制限内に書き終えることが重要ポイントです。

**面接対策では**、大学などの主催する面接練習研修会はもちろん、友人同士で面接官役と受験生役で、動画で写す、本番と同じ形式で取り組みましょう。録画で見直すと姿勢や態度、話し方の癖などが分かってきます。公開模擬試験を学習計画の中核に位置づけ、試験範囲を生かしたスケジュールを考えることも有効な対策です。

教員養成セミナー 2017年10月号別冊 合格 SUPPORT シリーズ第1弾 時事通信社より、一部引用

#### 「私の学習計画を立案しよう」

		教職教養・一般教養・専門教養	論作文・面接・実技など
9	基礎力 養成期		
10			
11			
12			
1	応用力 伸長期		
2			
3			
4	直前 完成期		
5			
6			
7			
8			

### 第3節 攻略の鍵—P D C Aサイクルに基づく「学習計画」—

#### 1 具体的な学習計画作成事例

即戦力とは、面接官が「私の学校の仲間と一緒に働きたいと判断できる人材」であると言われています。この「人物評価」を高く評価してもらえるためにはどうしたらよいか、自治体が求める教師像とは何か。それは、教師の専門性・人間性を育むために「学び続ける教師」です。学習計画を立案し挑戦し評価し、つまり、振り返りながら修正し新たな取り組みを創り出す「学び続ける教師」そのものです。

〇〇さんが作成した教員採用選考試験対策学習計画（例）を紹介します。参考にしてください。

9月から始める学習計画を作成するためのページです。本プログラムは、教師としての教育観・教育理念を見通しと振り返りのできる学習を通して構築するために編集しています。以下の留意点を紹介し

月別計画	筆記 一般：教職：専門 = 4 : 2 : 4	論作（策）文 対策 （引出しづくり）	個人面接・集団面接・集団 討論・模擬授業・場面指導
9月	上旬：総復習、教師塾を目指そう。 中旬～下旬：教科指導法	10 テーマ別対策 書く・書く	個人面接・集団討論 場面指導（実演）
10月	上旬 授業づくり、一般教養1周目 下旬～下旬：・教職教養1周目	自治体別対策 模擬テストに挑戦	メモリーツリーを作成する
11月	上旬 ・一般教養苦手つぶし 下旬 ・教職教養2周目	茨城県論作文対策	集団面接 模擬授業
12月	上旬：総復習、模擬テストに挑戦 中旬～下旬：過去問（月2回）	模擬テストに挑戦	集団と個人面接対策
1月	上旬：総復習、模擬テストに挑戦 中旬～下旬：過去問を反復	模擬テストに挑戦	集団と個人面接対策
2月	上旬：総復習、模擬テストに挑戦 中旬～下旬：過去問を反復	栃木過去問 模擬テストに挑戦	集団と個人面接対策
3月	上旬：総復習、模擬テストに挑戦 中旬～下旬：過去問を反復	群馬過去問 埼玉過去問	集団と個人面接対策
4月	上旬：過去問を総復習 中旬～下旬：自治体説明会に参加	茨城過去問	教師塾 集団と個人面接対策
5月	上旬：総復習 中旬～下旬：願書提出（志願理由・自己PR）	結果を踏まえて、進路の 再確認	集団と個人面接対策
6月	上旬：総復習 中旬～下旬：100%達成計画	教育実習までに100%達成	教育実習までに100%達成
7月	上旬：総復習、3周目 中旬～下旬：過去問・模擬テ確認	過去問・模擬テ確認	過去問・模擬テ確認
8月	上旬：総復習、4周目 中旬～下旬：過去問・模擬テ確認	過去問・模擬テ確認	過去問・模擬テ確認
9月	上旬：総復習、5周目 中旬～下旬：総則編など確認	総則編など確認	総則編など確認

ます。特に、5月、6月に教育実習を行う学生は、筆記・面接・論作文などは100%達成を目標に頑張らしましょう。

教員採用選考試験対策「学習計画」の留意点は、下記のとおりです。

- (1) 授業像、学級像、チーム学校像など私の教師像・教育理念を形成していきましょう。そのためには、学校ボランティア体験などでの学びが「私のもう一人の〇〇先生」が創られていきます。受験自治体が求める「学び続ける教師」「信頼される教師」などを具体的に考えましょう。
- (2) 一人での勉強は限界があるので、大学の先生や教職支援室などに相談し意欲を高めよう。
- (3) 公開模試を日程に組み込み、結果を分析し修正する力を養おう。
- (4) 明るく笑顔で児童生徒に接することができるよう、人間性・専門性を高めよう。

## 2 攻略の鍵—教員採用選考試験のスケジュール作成—

公立学校及び私立学校の教員採用選考試験のスケジュールについて、示します。選考は1次試験（主に筆記試験）、2次試験（主に面接・論作文・実技など）の2段階で行われます（一部、3次試験を行う自治体や区別のない自治体もある）。併願を考えながら学習計画を作成するとともに学習の見通しと振り返りを行い、本番に向けて着実に積み上げていきましょう。

公立学校		私立学校 <b>要注意！</b>
2月 募集要項の発表 3月 配布開始（自治体HP） （説明会に積極的な参加を） 4月 インターネット出願増加 願書の提出 <b>要注意！</b> （志望動機、教師像など） 5月 教育実習の準備・本番を 迎える時期です。 <b>要注意！</b> 6月 1次試験（通常、7月。 自治体により6月最終週。 に1次試験が行われ、2次試験を経て、10月末までに合否が 発表されます。自治体によって3次試験があります。） 7月 1次試験合格発表 8月 2次（3次）試験	<b>提出書類</b> ①志望動機などを記入した願書 ②教員免許状の写し、取得見込証明書 ③最終学校の卒業（修了）証明書、ま たは卒業（修了）見込証明書 ④最終学校の学業成績証明書 ⑤健康診断書 ⑥写真など （自治体によって異なるので、必ず自 分で確認することが必要です。）	私学は学校ごとに独自の募 集・選考が行われる。希望す る学校の採用状況（専任、非 常勤など）を確認する。 ※私学教員の適性検査は大学 3年生から受検可能。 <b>適性検査採用の私学</b> ・6～7月応募書類の提出 ・8月私学適性検査（教職、 専門教養など。） <b>適性検査を採用しない私学</b> ・希望校の関係者からの推薦 や紹介 ・大学の求人票に応募する。 ・直接、ホームページから 応募する。 <b>要注意！</b>
9月 10月 2次（3次）試験合格発表 候補者名簿に登載 11月 12月 教員需給関係を調整 採用決定 1月 臨時的任用教員募集の連絡 が大学に入ります。 2月 教務課教職担当に問い合 わせてください。 （教職支援室も可） kyoushok@kokushikan.ac.jp <b>要注意！</b> 3月 赴任校決定 4月 公立学校教員として赴任	<b>多くの自治体では、一次試験では、採用予定                      者の1.5～3倍程度まで絞られます。</b> <b>合格者は、採用候補者として名簿に                      登載。「合格=内定=採用決定」と見                      なせる自治体もあれば、「内定」「採                      用候補」などのランク別に分けら                      れ、合格しても必ず採用されるとは                      限らない自治体もあります。</b> <b>臨時採用教員を希望する場合</b> ①登録の申し込み （窓口：教育委員会） ②書類の提出 （登録申込書や履歴書、教員免許状 の写しなど） ③「臨時的任用候補者名簿」に登載 ④校長による書類審査、面接	※専任、講師は応募・採用時 期が違うので、 <b>要注意！</b> <b>専任・非常勤講師される方</b> ・各学校での独自の試験を受 験すること（面接、一般教 養、専門教養、指導案、模 擬授業など）になります。 ・民間の教員採用の企業に登 録し情報を活用する方法も あります。 <b>採用決定に至るまで</b> 私学は専任・非常勤講師の 希望によって、学校独自の 応募・採用時期が違うの で、 <b>要注意！ホームページ                      を活用しましょう。</b> 3月 赴任校決定 4月 私立学校教員として 赴任
公立学校の教員として赴任	臨時採用教員として赴任	私立学校の教員として赴任

特に、願書の提出書類について、不安なことがありましたら教職支援室に相談してください。

『教員養成セミナー』2017年10月号別冊 p.2～3 時事通信社より、引用

### 3 攻略の鍵—「テーマ別ノート」作成—

#### (1) テーマ別ノートの作成

試験本番まで約 **10 カ月・300 日間**が、勝負の時期です。特に、筆記・面接・論文の中で、最初に着手したいのは、筆記対策です。過去問を入念に分析した上で問題集と参考書を購入し、「1日〇ページ(項目)」と決めて学習を進めます。教職教養、専門教養、一般教養とも、できれば12月末までには問題集1冊分を終え、間違った部分の復習に入りたいものです。教採対策プランの作成、過去問に挑戦し、分析し、分析ノートを作成する重要な時期です。

論策文・面接の本格的な対策は、なるべく早い時期の「テーマ別ノート」作成をお勧めします。「いじめ」「不登校」「学力」「特別支援教育」などのテーマごとに、こまめに記録・蓄積していけば、自らの教育観や教師観が形成され、試験本番で役立ちます。3~4月ごろからは少しずつ論文の執筆練習、模擬面接なども進めていきたいところですが、その際も「テーマ別ノート」が生きていきます。

#### 「テーマ別ノート」作成上の留意点

- |   |
|---|
| <p>① 市販の問題集・参考書(受験しない自治体も含める) ➡ 分析ノートを作成する。<br/>模擬試験の活用</p> <p>② 受験自治体の過去問(現物に近い状態の試験問題)を入手(過去問3年分、または5年分)</p> <p>(1) 過去問および演習問題・復習を繰り返す。 ➡ 分析ノートを作成する。</p> <p>(2) 問題をカテゴリー別に分類する。 ➡ 分析ノートを作成する。</p> <p>(3) 分析ノートの作成方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ノートの左側は、カテゴリー別に分類した問題を貼り付ける、または書き込む。</li><li>・ノートの右側は、書き込みスペースにし、整理していく。</li><li>・付箋で分かりやすく整理する。</li></ul> <p>(4) ノートの種類</p> <p>①一般教養 ②教職教養 ③専門教養 ④面接 ⑤論作文 ⑥実技</p> <p>(5) 公開模擬試験の活用</p> <p>③ 受験する自治体の「教員採用選考試験実施要項」の確認および対策</p> <p>④ 教育ボランティア・インターン体験に参加</p> <p>⑤ 受験する自治体を確定・併願を検討</p> <p>⑥ 面接練習を開始</p> <p>⑦ 募集要項を入手。志願書の作成</p> <p>⑧ 教育実習と教員採用選考試験との両立</p> <p>⑨ 1次・2次試験対策</p> |
|---|

#### (2) ノート活用による直前期仕上げ

直前仕上げ期では、これまでノートに記載した内容を100%に仕上げましょう。教育実習の前に一段落させるべきです。特に、教育実習中であるからこそできることは、これまで学んできた専門教養、教科教育法、学習指導案を「わかりやすい授業」として、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善の実体験ができることです。つまり、これまで積み上げてきた模擬授業、論作文や集団討論のノートに整理した課題を解決するための教育実習にすることによって、「校種・教科に応じて・・・具体的に述べよ」に答えることができるようになります。教育実習での実体験により、教師像・授業像・学級像が形成されます。1次・2次教採対策のキーワードはノート整理と実体験にあります。

## 4 攻略の鍵 —教員採用選考試験の情報収集力・分析力—

1年後に合格を勝ち取るためには、正しい情報を収集し分析した結果を踏まえて、見通しと振り返りを通して修正できる力を育む、「学習計画」づくりです。

### 1 情報Ⅰ（2次〇〇県教員採用選考試験）の分析方法

2次〇〇県教員採用選考試験の内容	具体的対策
<p>(1) 個人面接① (20分) 面接官2人、マスクを外す。            ・どのように来ましたか？</p> <p>(2) 〈場面指導〉構想1分、実演5分            ・保護者からの相談 ・小学校6年生男子 ・家で暴力を振るう担任としてどう対応しますか？</p> <p>○背景            ・両親が仕事で忙しく会話少ない・ゲームを買い与える            ・体格が大きく友達にも威圧的            ・やってみてどうでしたか？ →場面指導について深掘りされる。            ・SC (スクールカウンセラー) とSSW (スクールソーシャルワーカー) の役割は？            ・スマートフォン、携帯電話の所持率が高い。小学6年生が持つことに対してどう考えるか？</p> <p>(3) 個人面接② (20分) 面接官2人、マスクを外す。            (面接官①)            ・場面指導はどうだったか？ ・自己採点は？            (面接官②) 願書より            ・教師を志願した理由・学校ボランティア体験 (活動期間・活動内容・学んだこと)            →役割分担の大切さについて具体的に →あなたはどんな役割だった？</p>	

### 2 情報Ⅱ（2次〇〇県教員採用選考試験）の分析方法

2次〇〇県教員採用選考試験	具体的対策
<p>(1) 集団討論            1 グループの人数 6人            ・テーマ 「髪色を統一するなど、一部の社会からは校則は不必要だという声がある。校則のメリット・デメリットを話し合いまとめてください。」            ・構想10分間 (お題が書かれたA4用紙を配布され、メモ欄に記入をする。)            ・討議30分間 (司会者を必ず決める。討議中のメモが可能。)            ※討議の時間以外に他の受験者との会話はできない。</p> <p>(2) 個人面接            ・個人面接は2回実施 (各25分程度、面接官は2人)。            ・自己アピール票あり (1次試験の合否結果通知とともに郵送されたもの)。            ・自己アピール票だけでなく採用願書・履歴書等に関することや場面指導に関することも質問された。            ※自己アピール票に記入することや、詳しい質問内容は、別紙参照</p> <p>(3) 留意点: コロナウィルス感染症防止のため、受験者が座る所に仕切りがあった。入室前にアルコール消毒を行うことや、面接官の指示に従ってマスクを外すことの指示があった。</p>	

## 5 攻略の鍵 —あなたの教員採用選考試験の「合格力」—

今、学校では総合的なコミュニケーション力が求められています。

### (1) 「合格力」チェック

No.	質問項目	○で囲む
Q1	「こんな教師になりたい」という理想の教師像を持っていて、明確な言葉で述べるができる。	はい・いいえ
Q2	第三者に自分の悪いところを指摘されたとき、それを素直に聞き入れ、改善しようとする素直さを持っている。	はい・いいえ
Q3	自分の長所や短所などをよく理解し、短所は改善しようとする努力している。	はい・いいえ
Q4	大学の先生や先輩など、年上の人と話をすることが多い。	はい・いいえ
Q5	第一印象で「明るい」を持たれることが多い。	はい・いいえ
Q6	人に頼るより、何事も自分一人の力で解決しようとする。	はい・いいえ
Q7	どちらかと言えば「聞き上手」というより「話し上手」で、人の話を聞くよりも、自分が話をしている方が楽しい。	はい・いいえ
Q8	民間企業への就職など、教師以外の進路も少しは視野に入れている。	はい・いいえ
Q9	どちらかと言えば、努力よりも才能で生きてきたタイプだと思う。	はい・いいえ
Q10	長期的計画を立てるのは得意ではないが、目標が定めれば何事も短期で成功させる自信がある。	はい・いいえ

Q1～5：「はい」、Q6～10：「いいえ」の合計で診断しよう。

9以上：大いに有望、6～8：有望、3～5：強い覚悟を、2以下：自己改革が必要。

1年あれば十分。決してあきらめない覚悟と決意を。課題や短所を知り、具体的な長期プランを立て、スタートしてください。子どもたちが、あなたを笑顔で待っています。教職支援室の扉を開けて、みんなで一緒に楽しもう。

### (2) チェック項目の解説

No.	質問項目	自己評価
Q1	「理想の教師像」を持たないまま試験に挑むと、面接試験や論作文試験で、説得力のある意見を述べられませんが、自分の学校時代等を思い出しながら、どんな教師になりたいのか、紙に書き起こしてみましょう。	
Q2	面接試験や論作文試験の対策は、自己流では合格できません。大学の先生等に見て貰い、問題点を指摘してもらうことが不可欠です。自分の悪いところを指摘されて、ムツとするようでは上達できません。謙虚さを持つよう心がけてください。	
Q3	教員採用選考試験の面接試験では、その時点の能力よりも、将来的な“伸びしろ”がチェックされます。自分の悪いところを素直に認め、改善する姿勢はとても大切。今一度、自分の長所と短所について考え、短所の改善に向けて何をすべきか考えてみてください。	
Q4	面接試験では、正しい敬語を使えなければ、好印象を残すことが出来ません。これは短期間で身につくものではありませんので、なるべく早い時期から大学の先生など年上の人と会話する機会を増やすように心がけましょう。	
Q5	子どもたちに「元気」を与えるのも教師の仕事。教壇に立てば、「明るさ」や「はつらつき」が求められます。第一印象で暗い印象を持たれる人は、日頃から笑顔でいること、はきはきと話すことを心がけましょう。1年間継続できれば、きっと第一印象が変わってくるはずですよ。	
Q6	何事も自力解決しようとする姿勢は立派です。でも、教員採用選考試験は自分一人の力で合格するのは困難です。また、教師には周囲の人と協調することが求められます。壁にぶつかったときは、必ず頼れる誰かにアドバイスを仰ぐようにしましょう。時には「甘え上手」になることも大切です。	
Q7	「教師＝話す仕事」と思っている人がいますが、それだけでは務まりません。昨今の学校は、人の意見をしっかりと踏まえて発言・行動できる人材を求めています。集団面接や集団討論では、そうした姿勢があるかをチェックされるので、「聞き上手」になることを心がけましょう。	
Q8	教員採用選考試験は、民間就職との“掛け持ち”で合格を勝ち取るのは非常に困難です。本気で教師を目指すなら、試験本番までは教員採用選考試験対策にすべてを注ぎ込むことをお勧めします。	
Q9	教員採用選考試験の場合、少なくとも面接試験や論作文試験は、努力の成果がきちんと評価されます。才能だけで何とかなると考えている人がいたら、心を入れ替えて挑みましょう。	
Q10	教員採用選考試験の合格者の多くは、早期に試験本番までの流れを想定し、対策をスタートさせています。本テキストをしっかりと読み込んで、合格に向けた長期計画を立ててください。	

月刊教員養成セミナー 2015年9月 時事通信社 P28-30 引用